

SCH うご(スーパーコミュニティハイスクールうご) 報告

1. 開催日

平成 31 年 2 月 10 日(日) 13:00~16:00

2. 開催場所

羽後町活性化センター

3. 目的 *別紙参照

(1)地域連携の必要性と全国的な今後の動向について学ぶ

(2)様々なセクターの方々と「対話」を通して今後の連携の在り方と検討する

(3)教育関係者、行政、NPO、大学生、高校生などが情報交換し、繋がる場を目指す

4. 講師

①大正大学 浦崎太郎教授

②能代工業高校 小松弘樹校長

5. 参加者

総勢 80 名程度(別紙参照)

6. 成果と課題

地域連携の必要性や全国的な今後の動向について詳しく学ぶことができ、大人はもちろんのこと、高校生にとっても刺激的なフォーラムとなった。特に、他校との交流、大学生との交流などは、次年度以降の新たな可能性を感じさせる機会になったと思われる。また、フォーラム内容をグラフィックレコーディングでまとめることが出来ると言うことを多くの方々に認識してもらえたことも収穫であった。

課題としては、事例発表が長くなりすぎ、講演②と対話の時間を十分に確保出来なかった点が上げられる。事例発表を精選したり、ポスター発表にしたりなど次回以降の検討材料としたい。

7. アンケート・感想より(一部抜粋)

(社会人・大学生)

- ・地域ではまだまだ、高校に対する意識のズレがある気がする。地域ももっと高校に歩み寄る気持ちが必要だと感じた。
- ・地域での体験で得た課題を学校で習得、学習するという学校が得られる地域連携のメリットを知ることができました。
- ・授業の中で地域との連携を行っている知り、これは持続可能だと思いました。
- ・秋田高校で生徒が変わった事例を聞いてよかったです。
- ・地域と共に学校を変えていく意識を強く持ちたいと思いました。
- ・地域での体験で得た課題を学校で習得、学習するという、学校側が得られる地域連携のメリットを知ることが出来ました。能工フォーラムのような生徒と地域の方々が直接する場を10年以上続けてこられているのも素晴らしいと思いました。
- ・赤と青のところが紫になるように、私たちの活動をもっと積極的に参加できるように頑張りたいと思いました。地域の人たちとの意識のズレがあることに関して、すごくびっくりしました。現在は改善されてきているものの、まだまだ成長できると思うので頑張りたいと思いました。
- ・羽後高校生のスタッフの皆さんが、よく周囲を見て動いていることに驚きました。これも日々の活動の成果だと思います。またの機会があればさらに勉強させていただきたいです。
- ・このつながりをもっとたくさんの活動が広がれば良いと思います
- ・羽後町、羽後高校について多くの事を知ることができました。何を、どのように行うことで、どうなるのか。とても明確にプレゼンを行っていたと思います。そのため、羽後町が行っているプロジェクトの素晴らしさや必要性について学ぶことができたので良かったです。また、国際教養大学の三宅さんのプレゼンでふるふる秋田がとても魅力的な活動であると強く感じました。さらに詳しく知りたいと思っています。
- ・高校生が実施している活動をたくさん知り、自分が想像している以上に地域と高校生の連携がされており、非常に素晴らしいと思います。

(高校生)

- ・勉強になることがたくさんあったので、夢の実現に生かしていきたいです。
- ・振り返りを学校の授業だけでなく地域との関わりの中でも振り返りをすることが大切だと知ることができた。
- ・ただ知識をはき出すためだけの勉強ではなく、知識を生み出す、使う力を身につけられるように「自分で問い立てる」ことをしていきたい。
- ・私たちが、今どんなことを考え、何をし何ができるかを考えることが出来ました。一人では決して解決できない課題でも周りへ積極的に「SOS」を発信しよりよい町作りを目指すと共に、自分の豊かな学習へとつなげることができればよいと考えています。
- ・昔求めていた力と今求められている力が違うことがわかりました。

8. 当日の様子及び新聞記事

○当日の様子



①集合写真



②グラフィックレコーディングでまとめて頂きました。



③浦崎太郎教授と高校生



④浦崎太郎教授による講演

○新聞記事

(さきがけ新聞より)

平成 31 年 2 月 26 日朝刊)

高校と地域、どう連携
 高校と地域の連携を考える「SCH(スーパーコミュニティハイスクール)うご」がこのほど、羽後町西馬音内の町活性化センターで行われた写真。元教員で大正天(東京)地域構想研究所の浦崎太郎教授(53)が、地域連携の必要性について講話した。羽後高校と町の主催。

浦崎教授は高校の次期学習指導要領で打ち出されている「主体的・対話的で深い学び」の背景について「ネットの普及で、知識そのものよりも課題解決力や価値創造力といった知識生産力が重視されるようになった」と指摘。自ら問いを立て考える能力が必要として「社会に出れば正解が一つでない問いにぶつかる。答えのない課題がある地域で学んだ方がいい」と話した。

地元のみならず盛り上げるプロジェクトの展開など、全国の高校の地域連携事例を紹介し、「大人と本気で話し合うことが大事。高校生が深い学びをできるかは、大人の対話姿勢に懸かっている」と呼び掛けた。

羽後高校の生徒や町民ら75人が参加。羽後高校や雄物川高校の生徒がそれぞれ取り組んでいる地域活動について発表した。

(藤田祥子)